

たんちよう

JAくしろ丹頂
広報誌

vol.149

2020.3

くしろ丹頂

営農計画樹立協議 終了



音別支所



幌呂支所



鶴居本所



白糠支所

CONTENTS

- 営農計画樹立協議終了 ————— 1
- くしろ冬まつりで根釧牛乳をPR ————— 2
- 新・農業人フェア農業EXPOへ参加
根釧合同JA役員研修会 ————— 3
- 青年部鶴居支部学習会
日本獣医生命科学大学インターンシップ 実施 ————— 4
- 根釧合同農協常務・参事会 海外視察研修報告 — 5~12
- 普及センターだより ————— 13
- JAグループ通信 ————— 14
- 2020年東京オリンピック・パラリンピックを楽しもう — 15~16
- 釧路管内JA役職員ボウリング大会/今月のミルクレシピー — 17
- ちょっと一息あたまの体操「まちがいさがし」 — 18
- 理事会報告/生乳生産実績/青年部鶴居支部農の魅力動画で発信 — 19



管内の役職員が集まり交流を深めました!!
釧路管内JA役職員ボウリング大会

令和2年度 営農計画樹立協議 終了

～ 目標達成に向け着実な計画の遂行を!! ～

1月15日から1月末にかけ、4地区で令和2年度営農計画樹立協議を実施

酪農・畜産情勢は、TPP11、日EU・EPA、日米貿易協定等、国際競争が激化する中、本道農業を取り巻く情勢は大きな変革期を迎えております。

生乳生産につきましては、令和元年度より「北海道生乳生産基盤・安定供給強化対策」（第2期意向生産対策）がスタートしました。昨年の生乳生産量は、平成30年産粗飼料品質の低下等により減産傾向で推移しておりましたが、令和元年度産の粗飼料が良質な事、乳牛頭数の増頭等により乳量は前年を上回って推移しております。

令和2年度における営農計画の集計では、良質粗飼料の確保や搾乳素牛増頭対策事業による対策効果から乳用牛頭数が順調に増頭している事などにより生乳生産は、前年対比増の計画となりました。

新年度におかれましても酪農畜産の安定的な発展のため、基本となる「土・草・牛・人」づくりの再構築及び計画的な生産基盤の整備強化を

生乳生産の集計

(単位：t %)

	令和元年度実績 (クミカン年度)	戸数	令和2年度計画 (クミカン年度)	戸数	対比	令和元年度見込み (4～3月)	令和2年度見込み (4～3月)	対比
鶴居	38,409.7	38	39,106.1	38	101.8%	38,459.4	39,410.6	102.5%
幌呂	26,512.6	31	27,723.8	31	104.6%	26,701.5	28,945.7	108.4%
白糠	19,956.4	41	20,067.8	40	100.6%	19,816.4	20,229.3	102.1%
音別	16,375.9	23	16,588.5	22	101.3%	16,268.7	16,894.3	103.8%
JA計	101,254.6	133	103,486.2	131	102.2%	101,246.0	105,479.9	104.2%

図るとともに、各種補助事業等を有効に活用して頂き、生産性の向上及びコスト低減に向けた積極的な取り組みと情勢変化に対応できる柔軟な経営を確立願います。

組合員の皆様方が家族・社員総意のもと、目標達成に向け責任ある計画の遂行により、実り多い1年となりますようご期待致します。

飼養頭数の集計

		経産牛頭数	育成牛頭数	乳用牛頭数	馬	和牛
鶴居	2年度期首	4,298	3,493	7,791	3	150
	1年度期首	4,250	3,209	7,459	1	158
	差	48	284	332	2	△ 8
幌呂	2年度期首	3,093	2,462	5,555	16	175
	1年度期首	3,035	2,375	5,410	19	174
	差	58	87	145	△ 3	1
白糠	2年度期首	2,399	1,956	4,355	43	140
	1年度期首	2,492	1,896	4,388	42	142
	差	△ 93	60	△ 33	1	△ 2
音別	2年度期首	1,927	1,705	3,632	31	199
	1年度期首	2,040	1,540	3,580	25	191
	差	△ 113	165	52	6	8
合計	2年度期首	11,717	9,616	21,333	93	664
	1年度期首	11,817	9,020	20,837	87	665
	差	△ 100	596	496	6	△ 1



モーツと飲もう!! 根釧牛乳をPR

～ くしろ冬まつりにて消費拡大運動を実施 ～

2月1、2日の2日間、釧路市観光国際交流センターで「くしろ冬まつり」が開催され、釧路地区農協青年部協議会は、根釧牛乳のPR及びJAジャンプダウンロードキャンペーンを行ないました。

当JA青年部の松下雅幸部長は、「私達が生産している根釧牛乳のおいしさをより多くの消費者の皆様方にPRする活動として、継続的に実



對木さん(中央)もJAジャンプを推進中!



根釧牛乳をPRする松下部長(中央)と菱沼副部長(右)

根釧牛乳
ぜひ飲んで下さい!

施していくことの大切さを感じております。自分達の思いを直接伝え、おいしいと言っていただと大変励みになります。550万人サポーターづくりとして、スマホアプリ『JAジャンプ』の推進も地区をあげ積極的に取り組んで参りたい。」と意気込みを語って頂きました。

会場内では、雪像やイルミネーション、そして多くのイベントが行なわれ、まつりを盛り上げました。



子供に大人気チューブスライダー



場内を練り歩く寒風神輿



みんなで作ろう! 手作りゆきだるま

新・農業人フェア 農業EXPO(東京会場)へ参加



釧路農協連出展パネルでPR

次年度の新・農業人フェアへの出展（エントリ―）も予定しており、就農希望者や酪農ヘルパーの方々の貴重なコミュニケーションの機会でもありますので、今後も継続的に出展し担い手確保に向け取り組んで参ります。

1月25日、池袋サンシティにて、新・農業人フェア農業EXPOが開催されました。このフェアは、農業をどうしたら始められるのかなど相談の第一歩から、農業法人の会社説明会、独立就農するにあたっての相談まで、就農したいという気持ちをもつ全ての方を対象にしたイベントで、今回は全国より264の団体が集まりました。当JAは釧路農協連のブース内にて出展し、高橋農業支援係長が



釧路農協連のブース内にて出展

参加しました。

フェアへの参加者は842名で、当ブース訪問者は男性7名、女性5名の計12名でした。

環境変化に適応した経営判断能力の啓発を!!

～ 根釧合同JA役員研修会 ～



2月4日、中標津町のウエディングプラザ寿宴で、JA役職員及び各関係団体等から約230名（当JAから14名）が参加し、根釧合同JA役員研修会が開催されました。ジャーナリストの堤美果氏は、「報道されないアメリカの真実と守るべき日本の宝」と題して講演し、アメリカの政治経済の実情及び農業と食、主食の多様性及び地産地消の重要性、持続可能



な農業を考えていく必要性等について講演しました。
（株）資源・食糧問題研究所の柴田明夫代表は、「日本農業の復活と輸出で稼げる日本農業を作る」と題して講演し、世界の食糧市場の実情及びTPP・EPA等日本農業を取り巻く情勢、農業・農村の必要性等について提言し、学ぶ事の多い有意義な研修となりました。



青年部鶴居支部学習会 開催

～ 営農計画作成のポイント等について学ぶ ～



真剣に聞き入る部員達

1月10日、青年部鶴居支部は鶴居本所で部員9名が参加し、学習会を開催しました。

当JA営農相談課鈴木係長が講師となり、「営農計画について」と題し、営農計画とは何か、作成のポイント、クミカン制度の仕組み及び基本ル―

ル、クミカンを運用するための営農計画の必要性等について詳しく学びました。

参加した部員からは、今後実際に営農計画を樹立していく上での疑問点等について質問が出されるなど学習の多い意義ある学習会となりました。

日本獣医生命科学大学 インターンシップ 実施

～ 体験を通してJAや農業について理解を深める ～



JAについて様々な事を学ぶ

1月27～29日の3日間、日本獣医生命科学大学の学生2名を対象としたインターンシップを実施しました。

JAで実際に仕事を体験することでJAの事業や仕組み、農業についてより理解を深め、今後、就職先の選択肢として検討する事などを目的とし、管理部長からJA組織概要等、営農部長から営農計画・クミカン制度

等について説明がありました。また、当JAの各施設や組合員の施設を見学し、哺育育成センターで実際に仕事を体験しました。

今後もインターンシップ等を積極的に受け入れるとともに、就業体験を通じて、農業やJA等でご活躍されることをご期待致しております。



指導を受けながら哺乳の準備

2019年度 根釧合同農協常務・参事会

ニュージーランド農業視察研修 報告

参事 坂本 克 則

11月2日から11月9日の日程で、根釧合同農協常務参事会主催の海外農業視察研修が行なわれ、総勢16名にてニュージーランドの酪農視察に参加しましたのでご報告致します。



リンカーン大学にて
NZ酪農事情について説明を受ける視察団

11月4日

リンカーン大学（クライストチャーチ市近郊）

1. リンカーン大学について

・リンカーン大学は、ニュージーランド南島クライストチャーチ市郊外セルウィン地区リンカーンに所在する大学。南半球に所在する最古の農業学校であり、農学、畜産学、園芸学の世界的な研究機関である。

・大学内は4つの部門にて研究・教育が行われている。それぞれの部門が学士過程から博士課程までを担当する。農業、畜産、バイオテクノロジー産業に多くの人材を輩

出している。農業学校としての建学の歴史から土や種子、肥料や家畜伝染病の研究のほか、バイオテクノロジー研究が盛んに行われている。

・本部キャンパスの学生数は約4,500人。教員数は約250人。テルフォードキャンパスの学生数は約1,300人。ニュージーランド最小の大学である。大学内に8つある学生寮で約550人が暮らしている。学生数の半数は留学生と海外からの移住者である。海外6カ国、16の大学と連携し正規交換留学プログラムを提供している。学術間協定を持つアメリカと北欧からの留学生が多い。本部キャンパスは、クライストチャーチ中心部から車で30分の地に所在する。周囲を農場と畑に囲まれた酪農地帯に位置する。

2. シェアミルキング制度について

・シェアミルキング制度とは、農場オーナーと牛の管理者（シェアミルカー）で、農場の利益を一定の割合で按分する制度で、農場所有

者と牛の所有者が分かれている。

3. リンカーン大学研究農場での説明内容

(1) ニュージーランド（NZ）酪農とグローバル市場

・NZは、世界の生乳生産の3%を占めており、世界の8番目の乳製品生産国であり、2018年6月には、輸出額は約166億6,670万NZドルに達し、乳製品の国際取引の3分の1を占める主要な乳製品輸出国となっている。

・NZの95%の乳製品は輸出向けに生産さ

れ、2

018

年6月

でのト

ップ5

の輸出

国は、

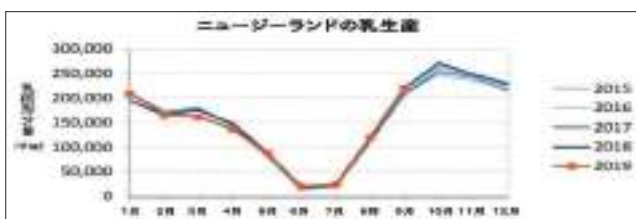
中国、

オース

トラリ

ア、ア

メリカ、



▲NZの乳生産（各年1月～12月）

資料：リンカーン大学

注：2019年は、9月迄の値



アラブ首長国連邦に次いで日本と
なっている。

- ・NZの酪農産業システムは、アメリカやヨーロッパ等とは違い、牛舎で飼養することなく放牧飼養が主体となっている。従って牧草の成長の度合いによって生乳生産量に変動がある。NZでの6月、7月の冬季は牧草の生育停滞により生乳生産量が低下する。

(2) 牧草の重要性

- ・NZ酪農は、政府からの援助金を受けていない。自分自身で農場経営を確立しなければならないが、牧草の利用が最も低コスト生産を行うための基本になる。

- ・酪農家への乳代の支払いは、液体の生乳生産量ではなく、海外への輸出が多いことから生乳1キロ当たりの乳脂肪と乳タンパクとの乳固形分量 (Milk solids) で精算される。

- ・NZの酪農家は、収益性を高めるために乳固形分の生産量をどのようにして増やすことができるかが一番のキーポイントになる。また、

農場の生産コストは、1キロ当たりの乳固形分に掛けられているコストが決め手になるので、生産コストを下げるのがカギとなる。

- ・NZの酪農は、技術に経費を使うよりも牧草の品質をいかに高めて生産を上げることができるかが重要となっている。

(3) 牧畜システム

- ・NZの農業システムは、5つの段階に分かれている。輸入飼料の使用度や時期によって区分されている。

- ・NZの乳牛は、一頭当りの年間乳量は約5,000kgである。体型は475〜500kg/頭と小柄である。

- ・放牧される乳牛は、3.0〜3.5頭/haが飼養される。灌漑を引いている牧草地は、年間14〜18t/haの乾物収量となっている。

- ・冬季は牧草の伸びが低下するため、生乳生産量が減少する傾向にある。少なくとも70%以上は牧草で育てたい考えがある。今の時期は11月で牧草の生育が良くなっているが、いかに牧草の質と生産を高めるか

が重要なテーマとなる。

- ・乳牛の分娩は4〜6月に集中させ、6週間で50%の分娩をさせるようにし、7月末迄に70%の分娩を済ませるようにしている。

- ・一般的には、10月から11月にかけて種付けを行う。基本的に人工授精を行い、不受胎牛には種雄牛を混牧させて交配を行う。当該研究農場では、学生が多く安全面を確保するため種雄牛を用いての交配は行っていない。

(4) 放牧草地での説明内容

- ・南島は比較的降雨量が少ない地帯である。通常は、年間の降雨量が550〜650ミリであり、11月から2月までは雨が少ない時期であるため、地下水を利用した灌漑設備によって約400ミリを牧草地に散水を行い牧草の生育を補う。



全長350mの灌漑施設



パーラー内部の様子

- ・同研究農場の牧草地の草種は、ライグラスと白クローバーが主体である。牧草地68haで210頭の放牧を行っている。

11月5日

ワイン&トレイシー・ブラウン農場
(マタマタ郊外)

○農場の概要及び環境に配慮した酪農経営と持続性農業について

- ・ケンブリッジの郊外マタマタで代々家族経営を続けている農場。350ヘクタールの敷地を持ち、240ヘクタールの土地に約700頭の乳牛を飼育し約100ヘクタールの牧草地とトウモロコシ畑、10ヘクタールの森と湿地帯がある。

- ・ブラウン家では、環境の回復、水の品質管理を重要と考え、力を注いでおり、牧場周辺のほとんどの小川はフェンスで覆われ、池や水の流れていく場所は大きなNZ原産の木々を植栽しており、牧場内の一部は林業ともいえる。

- ・搾乳牛680頭、1回の搾乳は2時間半で搾ることができ、年間に約260,000キロの乳固形分を産

出。

・搾乳にかかるタイムスケジュール
○クリスマスまでは、1日2回搾乳（5時、15時）

○クリスマス後、2日で3回搾乳（5時、18時、10時半）

・牧草はライグラス、ホワイトクローバー等。更新は11ヘクタールごとに毎年行っている。

・牧草主体なので、冬期および夏枯れの時期にサイレージ等を使用する。

・ウイン氏（牧場主）と奥様（経理担当）に加え3名の常勤で運営しており、ニュージーランドの典型的な家族経営である。
・2010



丘陵地にあるブラウン農場の牛舎

年に環境に配慮した優れた酪農経営で「ワイトカ バランスファーム エンバイロメント賞」を受賞している。

・当牧場では「フリージアン」と「キウイクロス」を掛け合わせている。丘陵地が多いので牛が大きくなると負担が増加してしまうことから、後につける種牛は、フリージアンの割合が強い牛にはキウイクロス、キウイクロスの割合が強い牛にはフリージアンをつける。

・ニュージーランドではいかに乳固形分の値を上げていくことが最も重要。品種については個々の考え方による。

・ニュージーランドには雄牛牧場というエージェントが数か所ある。実態は種牛を借りるときに買って返すときに売るシステム



Ella 農場マネージャーより説明を受ける

ム。

・雄が生まれた時、大体4日で出荷する。1頭あたり30〜40NZ\$位。廃用牛等については市場を通して売っている。

・昨年発生したマイコプラズマの影響については、発生源が南島（※当牧場は北島）であることに加え、基本的に外部から牛を持ちこむことがないので危惧していない。ニュージーランド自体でも沈静化している。

・土地だけでなく、人間と動物との関わりがあつてこそその持続性農業がブラウン家の持論とのことであり外部からのインプットを極力少なくしていくことを常に意識していることから生産量を伸ばすといった展開は考えていないのとことです。

11月6日

Milk Test NZ（生乳検査場）（ハミルトン）

(1) Milk Test NZの概要

1984年に5つの酪農会社によつて設立されたニュージーランド

最大の

（約97%シェア）

の生乳検査場であ

り、フォ

ンテラ社

の敷地内にあり同

社とタツア社の所有ではあるが、独立した機関として世界的にも先進的なオートメーション化が進んでいる。

約40名の職員がおり、ピーク時には1日で25,000サンプルを検査することがある。検査対象は牛だけでなく、ヤギ、羊、さらには水牛のミルクをテストすることができ、検査の範囲は、微生物検査、組成試験、分析試験と専門試験にグループ化されている。

各農家ごとに集乳時にチップが内蔵された採取容器にて検体を取り、成分検査と微生物検査を行う。またタンカー1台ごとに検体を採取しフラトキシシン検査等も行っている。各検査等は乳製品各社が独自に定めた基準を組み込んだ検査機で行われ、



Milk Test NZの会議室にて
ポルグラス氏より説明を受ける



体細胞、総固形分、タンパク質、脂肪などの成分検査や細菌、抗生物質などの乳質検査や臭いなどの官能検査も行っている。

検査結果は毎日乳業を通してフィードバックされ検査後の乳は汚水システムで処理、容器は用途の違う製品に再生利用され、検査料は乳業によって違うが、フォンテラ社で1件平均500NZ\$／年（4万円弱）程度であり検査料は乳代から差し引かれる。

集乳車は500台以上あり、フォンテラ社で所有し、運転者はフォンテラ社に所属している。集乳車1台を3人の運転手で交代する（12時間シフトで4日出勤、4日休み）。

細菌数のペナルティについては、フォンテラ社では生菌数5万以下など他社より厳しい。体細胞は40万以下で、



緑は成分検査用、白は微生物検査、赤は合乳用の容器

これを超えた度合いによりペナルティポイントが発生し、収入減となる。抗生物質についても、その度合いにより、乳代のペナルティポイントが発生する。

11月6日

フォンテラ社 Te Papa 工場（ハミルトン）

- (1) ニュージーランド国内には約12,000戸の農場が有り、そのうちフォンテラの組合員は10,500戸。受け入れた生乳の95%が加工され輸出される。国内消費は5%と割合的には非常に少ない。
- (2) 当工場ではエリア内約1,000戸の農場より60台の集乳車で、一日約6千t、年間約180万tの生乳を受け入れており（根釧合わせで約130〜140万t／年を大きく上回る）、夏の受け入れピーク時には一日に8千tの生乳を受け入れ・加工している。年間では300日以上操業し、32万5千tの乳製品を生産している。なお、当工場で生産された乳製品は全量輸出向けである。

- (3) 当工場での生産品32万5千tの内訳は、25万tが『パウダー部門』（全粉乳・脱脂粉乳・スキムミルクなど）、7万5千tが『クリーム部門』（バター・バターオイル・クリームチーズ・ハイファットクリームチーズ・凍結クリーム・マスカルポーネチーズなど）である。
- (4) 『パウダー部門』には、4つのドライヤーがあり、計1千t／日の処理能力がある。最大のドライヤーは、23t／時の全粉乳または、20t／時のスキムミルクを製造できる能力がある。
- (5) 『クリーム部門』については8ラインで製造。特に、クリームチーズは当工場でのみ製造しており、クリームチーズ・ハイファットクリームチーズ・凍結チーズはアジアの嗜好に合わせ、甘くこってりした加工をして中国・日本などに輸出。マスカルポーネチーズは日本の嗜好に合わせて日本にのみ輸出している。
- (6) 工場には500人のスタッフがいて、24時間稼働している。（12時間シフトで、4日出勤・4日休み）



聴講時：視察団

- (7) ニュージーランドは環境基準が厳しく、工場排水は飲める品質にしてワイカト川へ流す。これはその川が国民の飲料水源となっている為。

- (8) 年に一回、工場の公開日を設定し住民に開放。直近の公開日には、500人が来場。

11月6日

LIC（ニュージーランド家畜改良公社）（ハミルトン）



- (1) LICの概要について
LICは農業者が出資する協同組合で、ニュージーランドだけでなく世界各地の酪農、肉牛、シカの産業

に多くの商品やサービスを提供している会社である。国内の酪農家ユーザーは全体の4分の3にあたる11,590戸、飼養頭数は499万頭、1戸当たりの平均飼養頭数は431頭(180頭〜2,000頭)である。

主な事業内容は登録、精液製造と販売、後代検定、乳牛検定と産乳能力のデータ管理、交配相談、人工授精、農業コンサルタント、研究開発、人工授精師取得資格、DNA解析、畜産業界の統計と分析等を行っており、オフィスは2ヶ所でハミルトンとファーマストンノース(首都ウエリントンの隣町)にあり1,400名を超える雇用者(うち700名は正職員、残りは牛群検定、人工授精師等の季節雇用者)である。支所はオーストラリアとアイルランドにあり、南アメリカ、イギリス、アジア、南アフリカに代理店がある。又、会社の戦略目標を上回る純余剰金の大部分は株主である酪農家に配当金として支払われている。

1) 繁殖種雄牛について

種雄牛は4種類でホルスタイン・

フリージア
ン種、ジャ
ージー種、
キウイクロ
ス(※)種
(ホルスタ
イン・フリ
ージアン種
とジャージ
ー種のクロスブリーディング)、エ
アシャー種で総頭数は約1,000
頭(供用牛は約200頭、待機牛800頭)
を所有している。(キウイクロス種
は収益性の高いアウトクロス遺伝子
を開発し証明済となっている。)L
ICの国内シェアは80%を占めてお
り約200万頭の雌牛へ精液を供給して
いる。精液の年間国内販売本数は430
万本(うち液状精液は400万本)、輸
出は85〜90万本で世界30ヶ国(イギ
リス、アイルランド、ドイツ、日本
etc)へ輸出している。この時期は授
精最盛期(11〜12月)であり、訪問
時は12万7千本のストローを生産し
液状精液で国内の授精師および酪農
家へ出荷している。



放牧地で飼われている種雄牛(ホルスタイン種)

(※) ニュージーランドに生息する

鳥キーウィから名をとり
「ニュージーランドの」とい
う形容詞に用いられることが
あり、種雄牛の品種としてキ
ウイクロス種と名付けている。

2) ニュージーランドの改良方向等

最大の特徴は放牧酪農と季節繁殖
で生産コストは世界一低い国である。
特に季節分娩の周期を厳しく保つ事
を10年以上行い、酪農家の収益性を
持続させる事を目標としている。

2才で分娩させ生産寿命は6才と
している。牧草の発育に合わせ冬か
ら春(8月〜9月)にかけて分娩さ
せ、授精時期は夏までに行い受胎し
ない牛は淘汰となる。2回目までは
通常精液を

授精するが、
3回目以降
は肉用種の
ヘレフォ
ード種を授精
し、ここで
受胎しない
場合は淘汰
となる。初



精液処理室 希釈液は卵黄を使用(日本と同じ)

回受胎率は50%程で最終的には8割
の雌牛を受胎させる事を目標として
いる。淘汰率は平均22%で分娩間隔
は368日で世界NO.1である。飼養
形態が周年放牧で、以前は家族経営
が主体であったが近年、多頭化の影
響で人を雇う牧場が増加している。
よって人材確保の面からも魅力的な
職業で、扱い易く気質が温厚で、繁
殖性が良く毎年分娩し牧草地を傷め
ない小型サイズ(2才で500kg)で耐
病性が強く手間のかからず、乳成分
の高い牛群を目指し環境に適した種
雄牛造成を行っている。

ニュージーランドの乳牛の能力は
乳量4,217と乳脂肪4・75%、
乳蛋白質3・82%である。給与形
態は85%が自家産(放牧地)で残り
の15%は輸入飼料で賄っている。

11月7日

Desley & Steve McGougan 農場
(タウピリ)

(1) 農場規模について

当農場は100ヘクタールの土地を所
有しており、現在は250頭の搾乳牛を
飼育している。基本的に10ヶ月間搾



乳しており、農場主のステイブさんと雇用している1名の作業員とその奥様も搾乳の手伝いを行っている。

(2) 牛舎を持たない牧場経営

誇大な土地を活用し、100ヘクタールの牧場を46区画のパドックとして区切り、24日かけて元に戻ってくるように、ローテーションを行っている。

最近、パドックの1つにチコリの種を撒いたので、12月15日頃からチコリのパドックを少しずつ区切りな



から牛に与える予定とのこと。

現在は1日2パドックで回しているが、チコリを食べさせる頃には1.5パドック（1牧草パドックと0.5チコリパドック）のローテーションを予定している。

それ以外にはメイズ（とうもろこし）を5ヘクタール作付け、昨日定植したところで3月に収穫（背丈より伸びる）する。

牧草の種類はイタリアングラス、白クローバー。毎年20ヘクタールづつ、草地更新として、チコリを育て、その後耕し返してまた再び牧草を撒いている。この地域は夏枯れがあるので、今の時期にできるだけサイレージを作り、保険としてチコリも作っている。この2ヶ月間で200個のロールベラーのサイレージを作ったとのこと。

(3) 更新牛及び繁殖について

若雌牛の更新牛は65頭おり、1歳まではそのまま農場にて飼育し、1歳を過ぎた頃から1年間は別の更新牛を育ててくれる農場へお金を払って育成してもらっている。

A1で1ヶ月間種付けを行なう期間があるが、最後は種牛を借りてきて生付けする場合もある。中には14歳という母牛もいるがとても優秀な牛であるとのこと。

牛の種類は80%がフリージアンで残りの20%がキウイクロスであり、フリージアンの雄牛濡れ子で180NZ\$で売却でき、ジャージーだと30NZ\$にしかない。

(4) 搾乳及び生産について

ヘリングボーンのバーラーになっており、同時に20頭の搾乳ができ、搾乳時間は夜中の3時から行っている。現在は1頭につき約25リットルの乳を生産し、全体ではミルクソリッド11万キロの乳固形を生産している。

昨年は固形の乳価が1キロ当たり6ドル40セントだったので、損益ラインは4NZ\$くらい（人件費も含めた生産コスト）になる。夏になると暑くなるので搾乳は1日1回になる。来年の6月になったら、建築家の息子がこの牧場の後継ぎとして帰ってくるようになっており、息子が

戻ってきて2世代が同居する事になるので、とても楽しみにしているとのこと。

11月7日

フォンテラ本社（オークランド市内）

〈フォンテラの概要〉



フォンテラ社の概要について、説明頂いたタッカー氏

・フォンテラは協同組合であるが、資本調達とは株式形式の形態を取っており、酪農家（約1万人）が株主になっている。株式を保有する酪農家はシェアホルダーとして、フォンテラの議決権を有しており、株式を多く保有する酪農家から役員が選出されている。役員会を通じて、農家の声がフォンテラに反映されるようになっている。組織の理念については「お互いに協力して、人々にとって良いことをしていこう」（マオリ語で「タオ、タオ」である）。

・フォンテラの関連施設（工場、事務所）は酪農家の所在に合わせて北島から南島まで幅広く存在する。取扱い乳量は約2,000万t（全世界の3%）であり、ニュージーランドの人口は約500万人と、それほど多くはないので、フォンテラの乳製品については95%が輸出、140か国以上に輸出している。

・乳製品の分類として、乳原料、フードサービス（外食産業）、栄養、育粉、プロテインパウダー（医療向け）があり、日本には脱脂粉乳、バターなどの乳原料がメインとなっている。フードサービス（外食産業）については、中国、東南アジア向けの輸出が多い。アンマム（育粉）、アンカー（大人向けの栄養）、アンリー（メディカル）として、棲み分けをしながら、消費者向けのブランドを展開している。

・乳製品の世界中での需要と供給については今後5年で大きく増えていくだろうと予想している。特に、

中国、中東、アフリカは今後さらに5年から10年ぐらいかけて輸入に頼る環境になる。特に興味深いのはインド。インドは水牛などもあり、国内の生産も多いが、それ以上に今後、需要が増えてくるだろうと考えられている。国の成長との連動に照らし合わせて言くと、発展途上国がどんどん発展していくと、食の西洋化というか、乳製品の需要が増える傾向にあるので、例えば、アフリカとか、中東とかが成長していくと、もっと、乳製品の需要が増えていく可能性はある。

・しかしながら、ニュージーランドの生乳生産量は、今の状況としては、直近でこれが最大だと考えられる量には達している。今後、更に伸びるかといえば、難しい面はある。過去20年間は右肩上がりが増えてきたが、今が限界で、今後は横ばいに推移していくだろうと予測している。

・乳製品の需要は増えていくが、今

限られた、頭打ちになっている乳原料の中で、どれだけ効率よく乳製品を作り出せるかが課題になっている。

〈貿易と市場への対応〉

・2008年から2018年にかけて、輸出先の傾向が大きく変わっている。2008年はヨーロッパ、特にイギリスに輸出していた時期があつて、ニュージーランドはイギリスのファームと呼ばれた時期があつた。しかし、イギリスのEU加盟に伴い、ヨーロッパの他国の市場に目を向けるようになり、イギリスへの輸出量は減少に転じた。同時にアジアの人口増に伴い、マーケットの大きいアジアに大きくシフトしており、アジアが過去10年で2倍以上に増えている。中国への輸出が大幅に伸長しているが、日本も大きく、チーズの需要が増えている。中東と北アフリカも増えており、例えばアルジェリア、エジプトも乳製品の需要が大き

・自由貿易化の進展に伴い、関税率は各国減少傾向であり、関税がからない品目数も増えているが、昨今、アメリカと中国のように関税を掛け合ったりして、世界的にもかなり情勢が不安定になってきているので、輸出先を一つに大きくせず、できるだけ分散しリスクを下げる方策を取っている。

・ニュージーランドと各国の貿易協定状況について、貿易協定がすでに結ばれていて、実行されている国は、日本、TPP、北米（アメリカ以外の国）、アジア、東南アジア。中東アジアについては交渉自体は終わっているが、最終的なゴーサインが出ておらず、まだ発行はされていない。ロシアとは交渉はしていたが、クリミア半島の併合、政治的な問題が出て一旦保留になっている。総体的には主要なマーケットとは、貿易協定が締結できている。

・日本については、フォンテラ全体の中では輸出量は少ないものの、収益が大きい市場になっている。



1982年に現在のフォンテラ
ジャパンの前身となる会社を設立
し、主にチーズを輸出している。

統計では、ニュージーランドから
年間約6万t輸出しているが、ほ
とんどがフォンテラのもの。ホエ
イも1万t(同社のシェア約40%)、
粉乳(学校給食向け)も扱ってい
る。取引先については主に乳業
メーカーだが、プロテイン関係を
扱っている会社、メディカル関係、
油脂メーカーと多岐にわたる。

〈環境面(環境、人)への対応〉

・世界的に気候変動、人口増の問題
があり、いかに環境にやさしく生
乳生産、製品化できるか、ナチュ
ラルな栄養源として供給できるか
が課題となっている。消費者から
も食料がどうやって作られている
のか、どういうところで作られて
いるのが注目されるようになって
きている。そのため、酪農家か
ら工場、事務所も含めて全体とし
て、環境面(環境、人)を意識し
た考え方が基本となっている。

・炭素の排出量については、ニュ
ージーランドは2.9%と世界的にみて
も、かなり抑えることはできてい
るが、農場からの排出が全体の
90%を占めており、更なる排出抑
制に向けて、今年からオーブラデ
フェレンスというプログラムを作
り農場に対して改善策を提案(※
指導に近い)している。

・水の汚染対策については排水への
フェンスやGISマッピング(農
場の中でどこに水が流れているか
位置がわかるようなシステム)を
農場に提供している。システムか
ら得られるデータを活かし、更な
るハイテク導入の提案により改善
レベルを上げるように取り組んで
いる。そういった対策は政府を巻
き込んでニュージーランド全体で
行われている。



リンカーン大学研究農場にて 説明頂いたブライアント氏とともに撮影

表1 イネ科牧草の特徴

草種	略号	特徴
チモシー	TY	・耐寒性、嗜好性に優れ、1番草の収量が多い ・再生は分げつ茎型で遅く、雑草競合、干ばつや高温に弱い ・再生が早く、雑草との競合に強い
オーチャードグラス	OG	・耐陰・耐暑・耐乾性など環境適応に優れる ・刈り遅れによる嗜好性低下が顕著
メドウフェスク	MF	・湿潤な肥沃地を好み、根は深くまで伸展する
ペレニアルライグラス	PR	・嗜好性および消化率が高く、分げつ、再生力に優れる ・土壤凍結に弱く、極端な乾燥、排水不良地に弱い
フェストロリウム	FR	・フェスク類の環境耐性とライグラス類の収量性を持つ ・再生力および消化性の良さを合わせ持つ
ケンタッキーブルーグラス	KB	・踏圧に強く、放牧利用で多収
イタリアンライグラス	IR	・1年草で、初期生育が良い・糖含量がペレに次いで高い ・除草剤を使えない場所では、雑草対策に利用可能
トールフェスク	TF	・土壌や気象適応性が高く、耐暑性に優れる ・分げつが旺盛で再生力が優れる

* 出典：目で見える牧草と草地より

① イネ科草種の特徴

イネ科草種について

データを基に考えてみます。

そこで、高栄養の牧草を収穫するための多草種・多品種の活用について、現地から得られたデータを基に考えてみます。

近年は温暖化の影響などで、干ばつ、長雨、台風など牧草の生育に厳しい環境下にあります。また、北海道の草地更新率は約4%（H29年平均）と進まない現状にあり、植生が悪化しているほ場も多く見受けられます。そこで、高栄養の牧草を収穫するための多草種・多品種の活用について、現地から得られたデータを基に考えてみます。

牧草の多草種・多品種活用について

② イネ科牧草の繊維含量
平成26年、当支所試験ほから地域の基幹草種であるチモシーの中生出穂期6月24日に収穫した7草種を分析した結果、次のような事が分かりました(図1)。

総繊維（以降NDF）は、P

表1参照。



写真1 イネ科牧草の根張りの違い

現在販売されているイネ科の草種は、表1のように8草種あります。特徴は、栄養価や耐寒性、根張り、耐水性など多くを兼ね備えています。草地はこの特徴を活かし混播することで、より長く安定した収量や栄養価確保ができます(写真1*略号

草地更新時に農業者と共に栄養価と植生の維持を図る目的で、多くの草種・多品種を組み合わせて、実規模のほ場で取り組みました。TY3品種と他イネ科4品種マメ科1品種の計8品種を利用しました(図2)。

多草種・多品種の活用事例

このデータより、TY中生出穂期におけるNDFは、PR、TF、FRの順に低いことが分かりました。釧路地域では、TY以外にも栽培に適した草種があると分かりました。

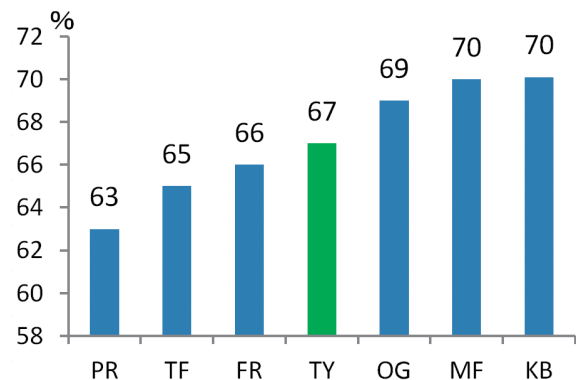


図1 NDF含量の違い (H26釧路中西部支所)

Rが最も低く、次にTF、FR、TY、OG、MF、KB、の順に高まっていました。

草のNDFは、経年草地より7ポイント低い62%でした。現場からの播種後の結果を活かし、多草種・多品種の特徴を最大限活用し草地の状況や、収穫方法に合わせて検討してみませんか。



写真2 出穂の違い(7/16)

TYは、極早生、早生、中生、晩生と出穂期が約3週間程度の期間があるため、収穫時のタイミングのずれを補うよう3種類を用いました(写真2)。その結果、令和元年6月11日の1番

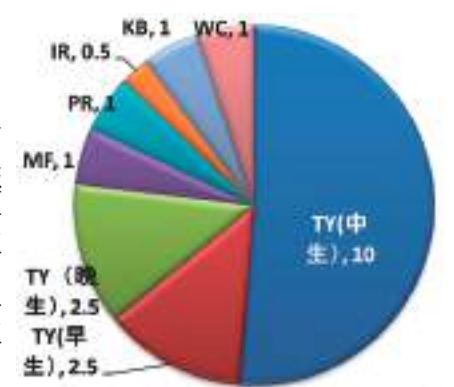


図2 5草種8品種播種量 (kg/ha)



JAグループ通信

JA北海道中央会



JAグループ北海道は北海道コンサドーレ札幌の選手やサポーターに、農業と食について考えてもらうことを目的として、「コンサ・土・農園（コンサ・ド・ファーム）」を開園しています。収穫した「トウモロコシ」や「馬鈴しょ」はコンサドーレのホームゲーム時にチャリティー販売を行い、その収益によりサッカーボールを購入し、道内の児童養護施設に寄贈しています。

今年度の募金額は174,916円となり、道内24か所の児童養護施設に48個のサッカーボールを贈呈することができました。この取り組みは平成21年より実施しており、サッカーボールの累計贈呈数は今年度で約500個となっております。

1月30日に道内の児童養護施設を代表して札幌市内の養護園で贈呈式を行い、JAグループ北海道より、JA北海道中央会の飛田会長、北海道コンサドーレ札幌より河合C.R.Cとドーレくんがサッカーボールを贈呈しました。



JA北海道信連



1月22日、旭川市内で「JAバンク北海道農業経営セミナー」を開催しました。北海道農業の未来に向けた農業経営者の「経営力向上」をテーマに講演が行われ、全道各地の農業経営者などが参加されました。講演では、農福連携・農福一体の取り組みや、地域ぐるみのブランド戦略等の事例について各講演者から説明がありました。講演後、交流会も催し、農業経営者間の情報交換及び連携強化を図りました。



JA共済連北海道



JA共済では、『「こども共済」資料請求キャンペーン』を実施しております。JA共済ホームページから「こども共済」の資料をご請求いただいた方に、『JA共済オリジナル アンパンマンはらまき』をプレゼントしております。キャンペーンは令和2年3月27日(金)までで、先着60,000名様限定となっております。この機会にJA共済のホームページにアクセスいただけますようお待ちしております！
○JA共済HPアドレス
<https://www.ja-kyosai.or.jp/>



ホクレン



冬至シーズンの道産かぼちゃ供給に向けてホクレンが商品化した銘柄「りょうおもい」を使った煮付けとあんこを組み合わせた総菜「冬至かぼちゃ」をセイコーマートが新規開発し、昨年12月に道内と茨城県に展開する全店で冬至前後の期間限定での試験販売をしました。

「りょうおもい」は、ホクレンが品種選定、貯蔵技術の研究を進め、生産者・消費者双方の「思い」として命名し、ホクホク感と甘味のバランスのとれた、おいしいかぼちゃです。



JA北海道厚生連



組合員ならびに地域住民の皆様の生命と健康を守るため、本会事業の積極的な啓蒙推進を図ることを目的として、広報誌「すまいる」を発行しております。年3回発行しており、様々な医療・健康情報を発信しております。

ホームページにもバックナンバーを掲載しておりますので、是非ご一読ください。



JAグループ北海道の連合会・中央会の活動内容を紹介します。各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイトをご覧ください。



注目のパラリンピック競技

東京で開催されるパラリンピック競技大会では、22競技が実施されます。

そのうちパラリンピック特有のボッチャとゴールボール、2016年のリオのパラリンピックから採用されたカヌーとトライアスロンの4競技についてルールと見どころをご紹介します。イラスト：藤部新一郎

ボッチャ

緻密な戦略で

トリッキーな展開が

繰り広げられる頭脳戦

ボッチャとは

重度脳性麻痺（まひ）者、もしくは同程度の四肢重度機能障がい者のために欧州で考案された球技です。1984年からパラリンピック正式種目として行われています。

「陸上のカーリング」という異名を持ち、赤・青のボールをそれぞれ6球ずつ投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、ジャックボール（目標球）と呼ばれる白いボールに近づくかを競います。手で投げられない場合は、足で蹴る、あるいは勾配具（ランブ）を使って転がすなどの方法で投球を行います。

パラリンピックでは障がいの種類と程度によって4クラスに分けられ、それぞれ個人戦とチーム戦（またはペア戦）で順位を競います。男女の区別はありません。ボールは大きさと重さは規定されていますが、炭やフェルトなど

見どころ

まさに頭脳戦。さまざまな戦術を駆使して競技に臨みます。最初に投げるジャックボールの位置をどこにするかで駆け引きが始まります。遠い位置に投げるか、近距離で勝負するか。何を主戦に置くかで戦い方が変わります。

カーリングのように相手のボールをはじくなど、自分が優位に立てるように位置取りしていきます。ジャックボールの位置そのものも球ではじいて移動させることができます。そこがカーリングとは異なる点であり、戦局がどう展開していくか見逃せないポイントです。

材質や硬さは選手の障がいの特性やフリースタイルによって使い分けられるマイボール制です。



ゴールボール

第2次世界大戦で視覚に障がいを受けた傷痍（へしやうい）軍人のリハビリテーションプログラムとして考案された。視覚に障がいがある人たちが行うチーム球技です。1976年にパラリンピックの正式種目となりました。

視覚障がいの程度にかかわらず、選手はアイシールド（目隠し）を着用して視覚を完全に遮断した状態で競技に臨みます。1チーム3人で、バレーボールコート大のコートで対戦します。両サイドにゴールがあり、鈴の入ったボールを転がして相手のゴールに入れて得点を競います。

攻撃側は、投げるボールの速



見どころ

できるだけ音を出さずに投球したり、投げ手以外の選手が足音や手拍子、声を出したりといった、音を使った駆け引きが大きな見どころです。ボールの大きさはバスケットボールとほぼ同じですが重さは約2倍。猛烈な勢いで転がるボールとそれを全身で受けるダイナミックな動きは迫力満点。見た目以上にハードで高度な技術が求められます。ゴールが決まった瞬間やタイムアウトなどゲームが止まっているときには大きな歓声を送りましょう。こうした選手と観戦者との一体感が観戦の醍醐味（だいごみ）です。

ビードやバウンドの高低をコントロールして、ディフェンスにくいコースを狙います。守備側は、ボールの鈴の音や相手選手の足音、ボールがバウンドした位置などによってボールのコースを察知し、全身を使ってボールを止めようとします。選手は音を頼りにプレーするので、観客には静かに見守ることが求められます。

ゴールボール

ボールの位置と動きに集中、瞬時の判断とダイナミックな動き

東京2020大会概要

●正式名称：東京2020パラリンピック競技大会 ●開催期間：2020年8月25日(火)～9月6日(日) ●競技数：22競技

アーチェリー、陸上競技、バドミントン、ボッチャ、カヌー、自転車競技、馬術、5人制サッカー、ゴールボール、柔道、パワーリフティング、ボート、射撃、シットイングバレーボール、水泳、卓球、テコンドー、トライアスロン、車いすバスケットボール、車いすフェンシング、車いすラグビー、車いすテニス

カヌーとは

パドルを操って進む小舟の総称で、水上の移動手段として数千年前から歴史に登場します。競技としてのカヌーは19世紀に英国で発祥。流れのない直線コースで一斉にスタートして着順を競うスプリントと、激流を下りながらゲートを通ってタイムを競うスラロームとに大別されます。競う者が行うカヌー競技全般をパラカヌーと呼びます。カヌーと体のフィットティングは重要で、障がいに応じて座席の改造や固定ベルトなどを工夫します。

パラリンピックでの採用種目は個人200mスプリント、下半身や体幹に障がいのある選手が対象で、障がいの程度により3クラスに分類します。

艇はカヤックとヴァアの2種類。両側にブレードが付いたパドルを用いるカヤックと、東京2020大会の新種目であり、カ

カヌー

上半身の力を駆使した
パドルングテクニックが光る、
水上の熱き戦い



見どころ

「水の上は究極のバリアフリー」と言う選手もいるほど。カヌーに乗り込むと障がいを感ぜさせません。スプリントは短距離を全速力で駆け抜けるため、しびきを上げ、水音を滑るように突き進んでいく迫力に圧倒されます。いかに効率良く、力強く、また安定してパドルを回転させることができるか。パドルングテクニックが勝利を左右します。「カヤック」と「ヴァア」との違いを見比べる楽しさもあります。水の上を爽快に漕ぎ進む姿と鋭いバランス感覚に魅了されるでしょう。

ヤックより艇が長く、本体の左右どちらかにアウトリガー(浮き具)が付いたヴァア。ブレードが片側だけのパドルを用います。

トライアスロン

不屈の精神とチームワークで
3種目に挑む

トライアスロンとは

スイム(水泳)、バイク(自転車)、ラン(長距離走)の3種目を連続で行って、順位を競うトライアスロンは、1974年に米国で誕生しました。

障がいがある選手が行う競技をパラトライアスロンと呼び、スイム750m、バイク20km、ラン5kmの全25・75kmの合計タイムで順位を競います。スイムからバイク、バイクからランに競技種目を転換(トランジション)する所要時間も合計タイムに含まれます。このとき、1人では競技することが困難と認められた選手に限り、手助けをする「ハンドラー」を1人つけることができます。また、視覚障がいの選手は「ガイド」と呼ばれる伴走者1人と共にレースを行います。

見どころ

天候や気温など自然の影響により困難なレースとなっても選手たちは不屈の精神で挑みます。その姿は私たちに感動をもち、世界的にも愛好家が多い理由でもあるのでしょう。

トランジションの様子も見どころの一つ。ウエットスーツや他の用具・器具の着脱、準備をハンドラーが支援します。また、選手とレースを通して伴走し、選手の目となり安全にコースを導くガイドには高い競技力や判断力が必要です。日頃から選手と練習を共にし、チームワークを磨く彼らの存在にも注目!

ディング(立位)「リクライニング」(傾斜)に分けられ、障がいに応じて用具や装具の使用や改造も認められています。



釧路管内JA役職員 ボウリング大会 開催



団体3位！



ストライクでガッツポーズ！

1月25日、釧路パレスホテルで、管内JA役職員ボウリング大会が開催され、管内6JA・各連合会の役員約120名が参加し、チームに分かれてゲームが行なわれました。

当JAからは、4チーム16名が参加し、上位を目指

して奮闘し、結果、女子個人の部準優勝・女子最多ストライク賞 不藤、団体の部3位（石渡・位下・手塚・不藤）が表彰されました。

ボウリング終了後は、釧路霧のビール園で新年交礼会が行なわれ、焼肉を囲みつつ懇親を深めました。



女子個人の部準優勝！



的確な指導が功を奏します

今月のミルクレシピ

フライパンひとつでできる減塩メニュー！

鶏肉と菜の花の和風スープパスタ

パスタをスープでゆでるお手軽レシピ

【作り方】

- ① 菜の花は沸騰した湯でかためにゆで、冷水にとって水気を絞り、長さを3等分に切る。
- ② 鶏肉は2～3cm角に、たまねぎは薄切りにする。
- ③ フライパンにごま油を入れて中火で熱し、②を入れて広げ、2分間焼いて上下を返す。Aを加え、スパゲッティを乾麺のまま広げて入れる。（長ければ2つに折って入れる）
- ④ 麺をほぐしながらよく混ぜ、ふたをして弱火で10分間火を通す。途中でほぐすように1、2回混ぜるとよい。
- ⑤ ①の菜の花にしょうゆ、ごま油をからめ、④とあえたら、器に盛る。



材 料（2人分）

スパゲッティ(1.6mm) (乾)	120g	菜の花	100g
鶏もも肉 小1枚	(200g)	たまねぎ	1/2コ(100g)
ごま油	大さじ1	A 牛乳	300ml
		水	200ml
		塩	小さじ2/3
菜の花用	しょうゆ・ごま油	各	小さじ1

パスタを牛乳ベースのスープで煮込みます。

パスタをゆでずに乾麺のままスープの中で煮込むと、程よいとろみとコクがいきなり、少ない塩分でも満足感が得られます。シンプルな調味なので、仕上げのごま油の風味も良く立ち、味のアクセントを感じやすくなります。

※Jミルクホームページより転載



まちがいさがしにチャレンジ!!

～ちょっと一息～ あたまの体操のコ～ナ～



右のイラストには左のイラストと違う部分が5ヶ所あります。間違っている部分を左下の枠内の数字で探しましょう。

今回の答えは4月号に掲載するよっ!!

2月号の答え

1 5 6 11 12

1 山の上に人がいる 5 上着の襟が違う 6 犬の頭上の雪の量が違う
11 そりのひもの長さが違う 12 スノーボードのラインが少ない

おめでとうございます!! 2月号の当選者 ・渡辺 章子 さん ・北川 紗花 さん ・坂本 文子 さん

まちがいさがし 3月の答え

--	--	--	--	--

住所

氏名

電話番号

ご意見や季節のつぶやきなどの一言をお寄せください。

ペンネーム ()

応募者の個人情報は厳正に管理し本応募以外の目的には使用しません。

・正解者3名の方にすてきなプレゼントをさしあげます。
なお、正解者多数の場合は抽選とさせていただきます。

《応募方法》 左下の部分を本所 企画管理係まで FAX (0154-64-2315) をいただくか、切り取っていただき各支所の総務係にお渡しください。

《締め切り》 2020年3月18日まで
当選者の発表は4月号にて発表します。
プレゼントのお渡しは郵送にて発送いたします。

・つぶやきコーナー

新型コロナウイルスが早くおさまってほしいです(Yさん)

雪は少ないと喜ぶ中♡立春を聞くとな…な～んと!!どか雪!!

雪又、雪の中、まだまだ春遠!!(ニャンコバーバさん)

もうすぐ春ですね!! ワクワク (アツコさん)

韓ドラに時間を奪われ、さー大変! (Nさん)

皆さんのつぶやきや、絵が楽しいです(ココ&くろさん)

まちがいさがしたのしいです(そうちゃん)

バレンタインですね♡
チョコをわたしましょー!



(すーちゃん)

理 事 会 報 告

1月定例理事会 令和2年1月31日(金)

報告事項

1. 専決事項及び諸会議について
2. 各委員会・諸会議等について
3. 12月末財務状況について
4. 事業の実施処理状況について
5. 令和元年度決算見込みについて
6. 個人情報保護計画にもとづく実施状況の監査結果報告について

付議事項

- 議案第1号 営農振興資金並びに共済担保資金の貸付について
- 議案第2号 固定資産の取得について
- 議案第3号 諸規程の一部変更について
- 議案第4号 理事の補欠選任について

その他協議事項

1. 組合員の農業に係る現況照会について
2. 機構改革及び金融効率化店舗並びにAマートに係る地区説明会について
3. 当面の業務日程について

■令和元年度	生乳生産実績（1月）			
	月計乳量（kg）	1月前年比(%)	累計乳量（kg）	累計前年比(%)
JAくしろ丹頂	8,634,524.0	100.1	84,917,710.6	99.7
鶴居地区	3,297,289.6	100.5	32,249,930.9	101.8
幌呂地区	2,290,686.2	102.9	22,376,720.4	101.9
白糠地区	1,690,818.4	99.8	16,663,253.7	98.5
音別地区	1,355,729.8	95.3	13,627,805.6	93.4
管内計	45,274,553.3	101.6	444,480,017.6	100.6
（前年度管内計）	44,548,638.5		442,036,514.8	

青年部鶴居支部



**「動画で発信！農の魅力」コンテスト応募作品
HPにて公開中!! ぜひご覧下さい!!**

「農業農村の魅力発信」をテーマに農業への興味や農村へ来てみたいと消費者へ働きかける事などを目的に作成され、部員達の熱い想いが凝縮されており、第68回全道JA青年部大会にも応募された力作です!!

視聴QRコード
はこちら→



編集後記
EDITOR'S NOTE

□ 最近、テレビのニュースなどでは連日のように新型コロナウイルス感染症が話題となっております。中国からアジア、全世界へと広がっており重症化し死亡者数も増え続けております。水際対策や検査方法、予防策など様々な情報が流れております。冬だけでなく季節の変わり目となるこれからの時期、インフルエンザや風邪などを引かないよう予防と対策にしっかりと取り組み体調管理に努めて参りましょう。

Instagram
ID→jakushirotancho



JAくしろ丹頂ホームページ

